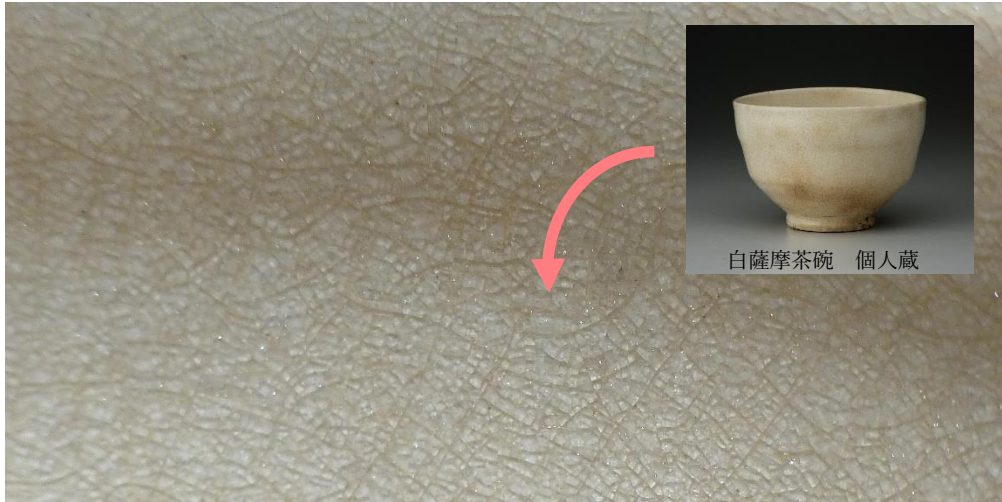


## シリーズ「薩摩焼」(全10回)

常設展示3階美術・工芸部門

### No.1 白薩摩—鑑賞の極意! 「素地」

白薩摩は、まず“素地”に注目!!



この茶碗が作られたのは17世紀。300年も大切に守られてきました。表面をよく見ると、細かなヒビに覆われています。実はこれが白薩摩最大の魅力ポイント!

でも、なぜこうなるの? どうやったらこうなるの?

**お**答えしましょう!

このヒビを貫入(かんにゆう)といいます。決して割れているわけではありません。白薩摩は陶器ですので、陶土でできたボディをガラス質の被膜が覆っています。そのガラスにヒビが入ったからこうなった!

この茶碗、1280℃くらいの高温で窯の中で焼いています。高温になると、陶土でできたボディも、表面のガラスも膨張しますよね!でも焼きあがって冷めてくると、今度は縮んでいきます。その時、例えばボディが5%縮むとしたら、ガラスは3%しか縮まない。

するとどうなるでしょう?

そう、ガラスがもうこれ以上は縮まないよ~!という時に、ボディがもっともっと縮もうと引っ張るので、耐え切れずにガラスにヒビが入るのです。これが貫入の正体!!

でも、窯から出すまでどんな貫入がはいるか分からないわけじゃない!

貫入は細かいほうが上等!という価値観があって、蝉の羽みみたいな微細な貫入が入るようにコントロールしているのです。これが見どころ!!

偶然なんかじゃない!そこに人の知恵が駆使されているのです。

次回は白薩摩のつくり方に注目します。お楽しみに!!

学芸員 深港